

輪投げ

単独投輪方式（1人が9本（赤・青・黄）全部のリングを続けて投輪する）

1チーム1人～9人×チーム数（不特定多数で実施可能）

(1) 輪投げ台の固定ラインと投輪ラインを2mの間隔をあけて引く。

(2) 1人の投げる輪は1回に連続9本とする。

(3) 的棒の下の板にかかっている数字の合計を1回の得点とする。

(4) ただし、次のように入った場合は、得点が加算される。

1) 縦、横、斜めに3つ並んで入ったとき→1列につき15点加算

2) 全部の棒に入ったとき→300点

(1列の合計得点15点×8列×2+パーフェクト点60点)

上記は基本的な方法であり、対象年齢や状況により、得点方法、距離、輪の数などを工夫するとよい。

交互投輪方式(2人で行い、1投ずつ交互に投輪する。)

1チーム1人～5人×2チーム

(1) 輪投げ台の固定ラインと投輪ラインを2mの間隔をあけて引く。

(2) 通常、1対1のシングルスで行う。

(3) ジャンケンで先攻後攻を決め、勝ったほうが先攻、負けたほうが後攻となる。

1試合は、3セットで競い、2セット以降は前セットで負けたほうが後攻となる。

交互に1本ずつ合計8本のリングを投げる。

この時、使用するリングは、先攻は赤リング4本、後攻は黄リング4本を使用する。

青リングは「アンカーリング」として使用する。

(4) 合計4本の輪が投げられた後の得点状況により、点数の低いプレイヤーには

「アンカー権」が与えられ、このプレイヤーがアンカーリングを投輪し、セットが終了する。

ただし、同点であった場合は、アンカー権は施行されない。

(5) 的棒の下の板にかかっている数字の合計を1回の得点とする。

(6) 勝敗は、1試合必ず連続して3セット行い、勝ちセット数で競う。同点の場合は総合得点の多いものが勝ち。

その他

- ・リングは、どのように持ってもかまわないが、必ず片手で投げる。
- ・リングを投げるとき、両足は地面に接していなければならない。
- ・先に投輪したリングが、完全に静止してから次のリングを投げる。
- ・必ず投輪ラインの後方から投げ、リングが手から離れて台に落ちるまで、ラインを踏んだり超えたりしてはならない。

